

小学校名	呉市立昭和西小学校	指導者名														
学年	第4学年	教科等	国語科													
単元・内容	「語ろう・広げよう ごんぎつねの世界」															
○ 児童の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・ 叙述を意識せず、空想していることがある。 ・ 登場人物のだれの行動や会話なのかを勘違いして捉えているため、それぞれの登場人物の気持ちやその変化について捉えることが難しい。 ・ 考えたことを話し合うことによって、自分の考えを広げたり深めたりすることが難しい。 															
○ ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・ 複数の場面の叙述を関連付けながら、登場人物の気持ちの変化について捉えることができる。 ・ 対話によっていろいろな考えを比較することで、互いの考えの違いに気付いたり自分の考えを見つめ直したりすることができる。 															
○ 手立て	<p>① 登場人物の行動や会話に、色別にサイドラインを引かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 誰の行動や会話ををはっきりさせてから、その人物の心情を想像させる。 <p>また、「どの言葉から考えたの？」と常に問いかけ、叙述を基に想像できるようにする。</p> <p>② 対話の意義や方法を理解させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「グループ対話のポイント3ステップ」の 															
	<table border="1"> <tr> <td colspan="2">★ 受け止める</td> </tr> <tr> <td>相づちをうつ</td> <td>* なるほど。 * そういふことか。 * 分</td> </tr> <tr> <td>言い換える</td> <td>* ○○さんの言っていることは、～と</td> </tr> <tr> <td>確認する</td> <td>* つまり、～ということだね。</td> </tr> <tr> <td colspan="2">★ つなげる</td> </tr> <tr> <td>発言者に質問する</td> <td>* それは、どういう意味？ * なぜ、～</td> </tr> <tr> <td>共通点・相違点を確認する</td> <td>* ～さんの考えは、～と似ている</td> </tr> </table> <p>プリントを配付し、どのように対話をすればよいかを示すことで、対話によって考えを交流しようとする意欲をもたせる。</p>	★ 受け止める		相づちをうつ	* なるほど。 * そういふことか。 * 分	言い換える	* ○○さんの言っていることは、～と	確認する	* つまり、～ということだね。	★ つなげる		発言者に質問する	* それは、どういう意味？ * なぜ、～	共通点・相違点を確認する	* ～さんの考えは、～と似ている	<p>ごんは、赤。兵十は、青。情景描写は、緑。視覚支援をしてから思考させる。</p> <p>「ごん」と「兵十」とは、それぞれ異なる気持ちで話している。ごんは、大それたことを話して、恥をかきながら話している。兵十は、ごんの話に驚き、また、つづきから聞く出でています。</p>
★ 受け止める																
相づちをうつ	* なるほど。 * そういふことか。 * 分															
言い換える	* ○○さんの言っていることは、～と															
確認する	* つまり、～ということだね。															
★ つなげる																
発言者に質問する	* それは、どういう意味？ * なぜ、～															
共通点・相違点を確認する	* ～さんの考えは、～と似ている															
	<p>「受け止める」→「つなげる」→「進める」のステップで対話する。対話の中で使うとよい言葉を具体的に示す。</p>															
③ ノートに友達の考えをメモさせ、自分の考えと比較させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分と友達の考えを比較・分類・関係付けをさせ、自分の考えを見つめ直すことができるようにする。また、対話後に自分の考えを再度書かせることで、自分の考えの変容を自覚させるとともに、対話のよさを実感させる。 	<p>対話後</p> <p>対話前</p> <p>←</p> <p>考えの変容が自覚できる</p> <p>上段は自分の考え。下段は友達の考え。区別することで、比較しやすくする。</p>														
④ 続き話を書かせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作者になったつもりで続き話を書くことで、物語全体を通しての登場人物の心情を深く理解することができる。 															
○ 児童の変容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 色別にサイドラインを引くことで、登場人物の気持ちを、空想することなく叙述を基に想像することができた。 ・ どの発言で自分の考えを変容させたのかを自覚することができ、対話によって考えを広げたり深めたりすることができた。 															
○ 実践者のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 色別のサイドラインは、物語全体から登場人物の心情や心情の変化を捉えさせることに有効であった。また、どこで対話を仕組むか、対話で何を求めるのか、対話中にどのようにメモを取るかなど、単元全体の構想を綿密に計画しておくことで、読む力を向上させることにつながる。 															